

子ども同士の聴き合う関係を育てる

学校・学級の支持的風土は、教師と子どもとの関係づくりだけでは醸成できません。子ども同士の良好な関係づくりが重要です。子ども同士の聴き合う関係を育てるために、例えば、「傾聴」の姿勢（心構え）として、次のようなことを子どもに意識させることが有効です。目の前の子どもの実態，発達段階に合わせて読むことで，支持的風土づくりを考える手掛かりとしてください。

左の「大切にしたいこと」だけでなく、右のなぜこれをするよいかも子どもに意識させることが重要です

子ども同士の傾聴

大切にしたい姿勢（心構え）（例）

- 相手のどんな話にもまず耳を傾け、受け入れていこう。
- 相手の意見や考えを笑顔（温かい表情）でうなずき、身をのりだすように（身をのりだすような気持ちで）聴こう。
▲ 聞き手が冷たく無表情でいる時には、話し手の意欲はそがれ、コミュニケーションが続かなくなります。
- 相手の言葉だけでなく、表情やしぐさ、声の調子から相手の気持ちを読み取るようにして聴こう。
- 相手の意見や考えを聴く時は、相手の立場に立ち、相手の気持ちや考えを理解しようという態度で聴こう。そして、「分かったつもり」にならないで、質問する、尋ねることを大切にしよう。
※ 相手（話し手）の状況に応じて、待つ、見守ることも必要です。
- 相手の話を聴いたら、あいづちを打つ、賛成か反対かを述べる等、どんなことでもいいので何かしらの反応をしよう。
▲ 反応をしないと決めて聞いている時には、相手の話は耳に入りにくくなります。
- 自分の考えと違っていると思っても、共通点やそこから学ぶことがないかを考えながら、最後まで耳を傾けよう。
- いろいろな立場や自分と違う考えの人の話にもしっかり耳を傾けよう。

左のことを心がけてみると
例えば、こんなよさがあります

・相手の話に耳を傾け、受け入れることで自分の話も聴いてもらえるようになります。

・相手を、もっと話してみよう、もっと聴いてもらいたいという気持ちにさせます。
・集団が明るい雰囲気になります。

・相手の言いたいことをより深く理解することができます。

・反応することを意識して聴くことは、自分の思考を活性化することとなります。

・相手の意見や考えを尊重することで、相手も自分の考えに歩み寄ってくる場合があります。

・これまで自分には無かった物事を考えるための「新しい視点」が生まれたり、思考が深まったりします。

上記の大切にしたい姿勢（心構え）は、まとめて子どもに伝えてもほとんど効果はありません。子どもの実態や具体的な学習場面に応じてどれかを重点的に取り上げ、みんなで実践することで、子どもはそのよさや価値を実感できるようになります。そのことで望ましい姿勢（心構え）の定着が期待できます。

<参考資料>

「学級における支持的風土づくり ～個の学習の成立にも個の人格形成にも大きな影響を与える～」(2019)関根 廣志
次号は、「支持的風土づくり 各学校の取組（中学校編）」です